

教育ボランティア ニュースレター

第17号
発行日 平成27年11月

老いることの意味、老年期における健康とは？ — 教育ボランティア様の話を聞いて —

老年健康 生活支援論とは

老年健康生活支援論

老年健康生活支援論は
本学の2年生の学生が対象
の授業です。

授業の狙いは、老年期
の身体的・精神的・社会
的機能の特性やその生活
を理解し、健やかに老
い、穏やかな死を迎える
ための援助方法を創出す
る基盤となる知識を習得
することです。

この授業は高齢者の社
会生活の変化や老年期の
発達、倫理的課題等につ
いて講義をおこなった後
に、教育ボランティア様
に来ていただき、テーマ
に沿ってお話をしていた
できます。

「教育ボランティア」は、
現在も募集中です。お友達
やご近隣の方をお誘いいた
だき、是非学生の教育にご
協力ください。

ご登録希望やお問合わせは、神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター
：古谷（TEL：078-794-
8080 代表）までお願いし
ます。

編集・発行

神戸市看護大学

地域連携教育・研究センター

運営委員会

平成27年5月28日に本学の2年生を対象に「健やかに老い、生きることの意味」を
テーマに教育ボランティアのN様にご講義を頂きました。

本講義をN様にご担当頂き今年で4回目となります。戦前、戦中、戦後を生き抜
かれたご自身の生活史を年表と写真で紹介しながら、その時の思い出や気持ちを
語って頂きました。今年は我が国にとって戦後70年という節目の年でもあり、戦争
にまつわるエピソードを通して、生きることの意味を教えて頂いたように思いま
した。講義ではユーモアを交えながらも、戦争の中で感じたこと、命の尊さを教
えて頂きました。

講義の後に学生が書いたレポートには、「高齢の方は戦争体験が人生の中で忘れ
ることのできない大きな出来事で、それを伝える使命感を持っていると感じまし
た。言葉では伝えきれないほどの衝撃的な出来事は、体験した人だからこそ伝えら
れるものがあるし、私の心にも響きました」といった戦争体験についての感想も多
く、N様の平和を願う思いが強く伝わったように感じました。

そして、看護職を目指す学生に「心を拓くということ」をお話頂きました。「出
会った人には心を拓いて接することが大切だという重要なメッセージを聴き、常
に忘れることなく看護師という職業を目指していきたく感じました」と率直な
気持ちが記述されていました。また、「『結果はどうであれ、決して手を抜かなか
った』という言葉が印象に残りました。たとえ良い結果にならなくても、その過
程で自分が手を抜かず真剣に取り組めば、後悔なく生きていけると知りました」と
あるように、看護職を目指す学生に励ましの言葉を頂いたように思いました。ま
た、今秋からの基礎看護学実習に向けて不安を抱えていることや看護師になるこ
とを迷い悩んでいた学生からは、「今日が自分にとっての記念日になった」「N
さんの講義が人生の転機になった」という記述もみられました。

看護を学ぶことは決して容易いことではなく、教えることの難しさも感じるこ
とが多いですが、学生が今の自分と真摯に向き合う姿に触れ、私にとっても貴
重な学びとなりました。

毎年、N様の講義を聴き、初心にかえる気持ちになりますが、今回も学生と教
員の心に大きく響く講義を頂きましたことに心より感謝申し上げます。

（文責：老年看護学分野 坪井桂子）



【生活史を写真を用い紹介するN様と学生の様子】